

第288回 番組審議会

1. 日 時 令和2年 1月14日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F 「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 7名
出席委員数 6名

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

近藤 一英 (副委員長)

—以下50音順—

朝岡 正貴

石田 征広

佐々木 泰司

菅原 正二

○ 会社側出席者 (7名)

齋藤 秋水 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

高嶋 昇 (常務取締役)

一戸 俊行 (取締役報道制作局長)

君澤 温 (取締役総務局長)

梨木 祐亮 (編成業務局局次長)

近谷 利政 (報道部部長)

○ 事務局 大場 薫

4. 議題 『災害報道・テレビ局に求めること』

- ・キー局含めた災害報道に対するご意見。
- ・災害時の地元ローカル局に対するご要望、ご質問。

5. 議事概要

今回は、『災害報道・テレビ局に求めること』について審議しました。議事の概要は以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ放送制作局 一戸局長からの説明

・今回災害報道ということで、放送法には災害が発生した場合、あるいは発生する恐れがある場合には、その発生を予防し、またはその被害を軽減するために役立つ放送を行わなくてはならないという規定がございます。これまで災害報道はどちらかというと災害が起きた時に被害を伝えることに重きを置いたところがありましたが、最近は災害時には住民が命を守る行動を取るため防災情報を、少しでもわかりやすく、多角的に伝えることが重要な役割だと痛感しております。

●岩手めんこいテレビ放送制作局報道部 近谷部長からの説明

・、今は被害報道から、防災・減災・予防報道へとシフトしつつあります。今回、めんこいテレビとして初めてそのような報道番組を作りました。台風の最新情報、さらに釜石・宮古・久慈から、生の映像を入れました。さらにインフラ情報、そしてさらに早めに避難、命を守る行動を呼びかけるようなVTRを流しました。この他、ローカル番組についてはネットで同時配信しました。ユーチューブで放送しました。さらにツイッター、あとはフェイスブック等でも、情報を発信しました

●出席した委員からの意見

- ・気象予報士がいる場合は特に県内全体の天気予報より被害が大きいと予想されるエリアに絞って伝えたほうが良いのではないかと。
- ・地震に対する震度、津波などの情報に比べ、台風においてはまだフォームが固まっていないのではないかと。
- ・河川の状況をもっと早く詳しく報道することはできないのだろうか。
- ・災害発生時こそローカル局が協力し合い報道することはできないか。
- ・「随時」や「一部地域」という表現は受け取る側になると迷いを起こす場合があるのではないかと。
- ・過去の災害の事例をあげ、予想される災害規模を出していたのはわかりやすかった。

●委員からの質問、意見に対する会社側からの回答

- ・災害発生時などでは速報スーパーが出る際にチャイムを出しています。今後、いつ災害が起きるかわからない中、ローカル局としてどう取り組んでいくべきかというところを日々悩みながらやっており、今回いただきましたご意見を是非番組に反映させていきたいと思っております。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※令和2年1月15日（水） 産経新聞 東北版

※令和2年1月25日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし

※次回は、令和2年2月18日（火）12時より3階「星雲東の間」にて開催予定です。